

DB01705
2000
(HG)

筑波大学 博士（文学）学位請求論文

聖伝の構造に関する宗教学的的研究

——聖徳太子伝を中心に——

寄	贈
宮本要太郎氏	平成 年 月 日

宮本 要太郎

01003540

目次

序論

第一章 本論文の方法論的視座

第一節	宗教体験と宗教現象学	2
第二節	宗教史学と「歴史」の問題	5
第三節	統合の学としての宗教学	9

第二章 聖伝の宗教学的研究のための予備的考察

第一節	聖伝とは何か	15
第二節	先行する聖伝研究の批判的概観	20
第三節	神話の観点から見た聖伝	24
第四節	神話の物語的構造と聖伝	28
第五節	コスモロジーからクロノロジーへ——「聖なる歴史」としての聖伝	35

本論

第三章 聖徳太子の原像と太子信仰の成立

第一節	聖徳太子の原像	42
第二節	聖徳太子信仰の成立——「天寿国繡帳銘」をめぐって	49
第三節	飛鳥・白鳳時代の宗教的・政治的状況	51

第四章 「聖徳太子」のヒストリオグラフィカル・イメージ——『日本書紀』の太子記事

はじめに		56
第一節	記紀の歴史観	58
第二節	シャーマンの誕生——倭迹迹日百襲姫との構造的対比	66
第三節	聖を知る聖——貴人と飢者	72
第四節	歴史を叙述する太子	79
第五節	薨る皇子——日本武尊との類似性	81
第六節	三統を包貫く日本の聖人	85
第七節	『日本書紀』に見られる太子像の歴史的・宗教的意味	88

第五章	『聖徳太子伝暦』にいたる太子伝の成立と展開	
はじめに		95
第一節	『上宮聖徳法王帝説』と法隆寺	96
第二節	『七代記』と四天王寺	98
第三節	『上宮皇太子菩薩伝』と思託	100
第四節	『上宮聖徳太子伝補闕記』と調使家記	102
第五節	奈良時代および平安時代前期における太子信仰の展開—— 『聖徳太子伝暦』成立の歴史的・宗教的背景としての	104
第六章	聖伝における聖者のアルケタイプ—— 『聖徳太子伝暦』を中心に	
はじめに		107
第一節	受胎告知	109
第二節	合掌する太子、合掌される太子	115
第三節	「神通力」を見せる太子	121
第四節	神馬で飛翔する太子	124
第五節	「法華経」を将来し講ずる太子	127
第七章	聖伝のメタヒストリカルな構造	
はじめに		131
第一節	過去を想起する太子——太子前生譚	132
第二節	伝統に同定される太子——慧思後身説の誕生	138
第三節	現在に再生する太子——太子後身説の論理	142
第四節	未来を予言する太子——「未来記」の展開	149
第五節	メタヒストリーとしての聖伝	154
終章	論文の概要と今後の課題	160
参考資料		
(一)	諸太子伝の系統推定図	170
(二)	関連年表	171
(三)	推古朝の畿内地図	175
参考文献		176